

いつでも誰かがいる安心感

小坂団地区民会館常時開放

広報うしく市民特派員 杉井 智子

誰もが気軽に立ち寄れて、楽しみを見つけたり、人と出会ったりできる場所。地域の中にそんな場所があれば、一人ひとりが孤立することなく、安心して生活できる街になるでしょう。

全国でも珍しい「区民会館常時開放」を行っている小坂団地行政区を取材しました。



■小坂団地の状況

全世帯数約900世帯。牛久の中でも早い時期に開発が始まった住宅地のため、高齢の方が多い地域です。また、市役所などの公共機関や駅から遠く、行政区内には大きなスーパーもないため、買い物に行くにも車が必要です。

■常時開放って？

「こんにちは！」次々と区民会館に人がやってきます。年齢層も高齢の方から小学生までいろいろ。みんな、近所のお家に行くような気軽さでやって来て、事務室に声を掛けると目的の部屋に入って行きます。体操をする人、宿題をしに来た小学生、会館の予約をしに来た人、トイレを借りに来た人もいます。

地域の会館といえば、普段は閉まっていて利用する時だけ開けるところが多いのですが、小坂団地は利用者がいなくても、朝9時から夕方5時までは区民会館が開いているのです。

常時開放が始まったのは昨年4月。区民会館を建て直すことになったときに、当時の役員の話し合いの中で「新しくできる区民会館を区民みんなが気軽に集える場所にしたい。そのためには常時開放をしたい」という意見が出ました。具体的な運営方法について何度も検討を重ねながら、会館完成と同時に常時開放が始まりました。

■常時開放を支える人たち

常時開放のためには、鍵を開ける人と、開放中会館にいる人が必要です。そのため、役員がローテーションを組んで朝夕の鍵当番をしています。日中会館にいるのは「管理ボランティア」と呼ばれる地域の中のボランティアさん。開放日を午前と午後に分けた月ごとのカレンダーに、自分が入れる日を各自記入して当番を決めていきます。当番日には電話番や来館者への対応をしています。

■活発なサークル活動

この行政区のサークルの特徴は、初めて来た人が入りやすい雰囲気をつくるために、さまざまな工夫がされていること。卓球では参加人数ごとのダブルスの組み合わせ表が作ってあって、初めて来た人も、白板に名前を書くともみんなと同じように試合やラリーができるようにしています。かっぱつ体操の前に、月に一回パククッキングという調理法を使った料理会を開いて交流したり、囲碁将棋のサークルでは、弱い人も強い人も楽しめるようにハンディを決める表を作っています。

■終日開放になって

会館の申し込みが簡単にできる

上、当日空きがあれば、管理ボランティアに申し出て使用できるので、会館はほとんど空いていることがないくらい有効に利用されています。また、地域外でさまざまな活動をしている人が、この会館を拠点に、地域の中で自分の特技を生かして新たな活動を始めているというの、この行政区の素晴らしいところだと思います。

図書スペースも設けてあるので、放課後や休みの日には子どもたちもやって来ます。取材した日も、高学年の男の子たちが本を読んだ後、卓球を楽しんでいました。「区民会館の常時開放」によって、一人の人が持っている知識や技能、人とのつながりが、地域(行政区)の中で生かせるシステムが生まれつつあるような気がしました。この人のつながりが、町全体を活性化させ、どんな年齢の人も住みやすくする原動力になっているようです。

